

現在、那覇市民会館は休館しています。市民の文化芸術活動の発表の場や鑑賞の場がありません。また、多くの中学校の合唱や吹奏楽大会、高校の芸能鑑賞会、修学旅行生の平和講演など、これまで行われてきた公演などが市民会館で開催できず、文化および教育の面で早急に新たな施設を整備することが求められています。

この事業は、沖縄の振興に大いに資する施設として、平成24年度の事業開始以降、「基本構想」から、現在取り組んでいる「実施設計」などについて、議会の承認を得て「沖縄振興特別推進交付金」を活用して

事業を中止したらどうなるの？



事業説明会のほか、市民や文化関係の利用団体など、さまざまな方を対象にフォーラムやワークショップ、シンポジウム等を延べ17回開催し、延べ約680名の方に参加いただきました。

その他、基本設計を行う設計者選定にあたっては、公開で行ったプレゼンテーションでは、パレット市民劇場がほぼ満席となりました。また、基本設計の2回のシンポジウムでは、延べ300名の方に参加いただきました。

説明会の状況はどうだったの？



拡幅整備後の一銀通りのイメージ

そこで、平成27年6月から、地域のみなさんとともにワークショップや勉強会などを重ね、参加できなかった住民や事業所の方のご意見も踏まえ、新たなまちづくりのルールなどを定めました。

久茂地小学校の統廃合によって、周辺環境の変化が予想されます。例えば、文教地区が解除されることで風俗営業の制限が緩和されることから、これまでと同様な環境を守るため、新たなまちづくりのルールが必要になりました。

市都市計画では、久茂地・牧志地区のまちづくりは、国際・商業・観光都市を形づくることを将来像にかかげている一方で、慢性的な渋滞が課題として、交通環境の改善と良好な歩行空間を確保することを方針にかかげてきました。

久茂地・牧志のまちはどうなるの？

ワークショップでは、地域で大切にしたいものについて討議した結果、「利便性」「緑ヶ丘公園」「まちなみ」「地域の伝統」「地域のきずな・交流」の5つが整理されました。



新文化芸術発信拠点施設建設と久茂地・牧志のまちづくり

みなさんの疑問にお答えします

ワークショップでは、久茂地小学校跡地から、県庁前駅まで歩き、周辺環境を確認しながら、参加者それぞれの感想を共有したり、来場者の動線・将来的な維持管理を含めた使い方を考えたりしました。

ご意見には、女子トイレの増設や機材を運ぶトラックの搬入口が使いにくい、また道路に面したガラス張りの練習場は、非公開で公演を作り込む場合は適さないなど、舞台技術者や利用者の視点から、さまざまな提案をいただき、基本設計に反映することができました。

なぜ久茂地小学校跡地に決定したの？

新文化芸術発信拠点施設の建設地は、市が利用できる3つの候補地から選ばれました。

候補地になったのは、①久茂地小学校跡地、②現市民会館所在地、③新都心仮庁舎跡地です。

選定は、中心市街地の活性化、公共交通利用の推進、経済

進めてきました。今後、次年度から平成32年度まで建設工事を行い、平成33年度に開館します。

この交付金は、平成33年度が最終年度とされているため、同年度の開催をめざし計画を進めており、交付金が最大限に活用できます。

事業を中止したり、場所を見直したりした場合、基本計画から改めて行うため、場所の選定の作業も含めて、完成までに7年から8年の期間がかかります。文化活動の停滞、教育の面での影響が大きくなると懸念されます。また、「沖縄振興特別推進交付金」の期間外となることから、市の一般財源の持ち出しによる財政負担が莫大なものになることや、これまで活用してきた「交付金」の返還の可能性もあります。

一銀通りが渋滞するのはなぜ？

一銀通りに限らず市内では、朝の通勤・通学時間や夕方の帰宅時間帯に、慢性的な交通渋滞が発生しています。一銀通りの久茂地橋交差点や松尾交差点では、右折車や左折車により直進車が通行できないなどの原因もあり、渋滞が発生しています。

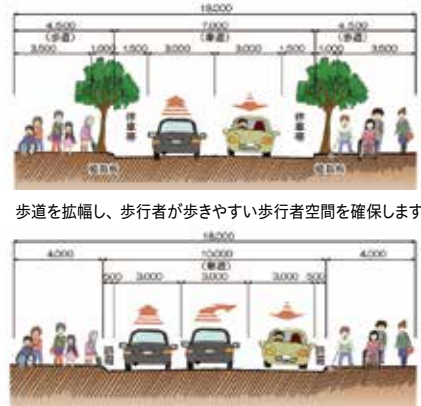
そして、これまで都市計画の方針としてかかげてきた「一銀通りの道路整備についても、新文化芸術発信拠点施設整備をきっかけに、慢性的な交通渋滞の緩和に取り組むことになりました。具体的には、施設が面する一銀通りの交差点改良や歩道を広げ、病院通りについても、歩行者が歩きやすくなるよう歩道の改良を予定しています。

「歩いて楽しいまちづくり」を進め、クルマに頼り過ぎないライフスタイルをこの久茂地・牧志地域から発信していきます。

渋滞は改善できるの？

久茂地橋交差点を改善するには、まず久茂地橋を1つの大きな交差点とすることで、橋上部での滞留をなくします。あわせて一銀通りに十分な「右折帯」を設けることで交通渋滞を緩和する計画です。信号についても「右折矢印信号」を設置し、安全に通行することができるようになります。現時点では、右折帯が確保されていないため、一銀通りの拡幅整備とあわせて変更予定です。

松尾交差点も、右折帯を設ける改良を行います。あわせて一銀通りとニューパライズ通りを結ぶ道路を整備する予定で、冲映通り向けの交通を分散し、交通渋滞を改善する計画です。



交差点改良を行うことで、交通混雑の緩和を図ります

バスやモノレールが便利な理由は？

新文化芸術発信拠点施設建設地は、モノレールの県庁前駅や美栄橋駅から約400メートルの距離にあり、徒歩7〜8分程度でアクセスできる場所です。

また、約100系統の路線バスが利用でき、平日で約2300便、土日祝日も約1900便のバスが運行し、県内でも公共交通の利便性の高い地域です。モノレールに関しては、現在、浦添市までの延長に取り組んでおり、最終駅の「てだこ浦西駅」には沖縄自動車道と結節とし、モノレールとスムーズに乗り継ぎができるための、1000台規模のパークアンドライド駐車場を設けることになっています。平成31年の開業後には、中北部からパークアンドライド駐車場を利用し、モノレールで新文化芸術発信拠点施設へアクセスすることもできるようになります。運行ダイヤについても、延長にあわせて増便する予定で、現在よりも便利になります。

公共交通を利用して新文化芸術発信拠点施設を訪れることに



現市民会館はどうなっているの？

源約1億1千万円。平成30年度から平成32年度まで、概算で、事業費約127億9千万円、その財源の内訳としては、沖縄振興特別推進交付金見込み額、約99億円、地方債約24億円、一般財源約4億9千万円になります。

開館から47年以上が経過し、施設の老朽化が進み、特に、建物のコンクリートの劣化が著しく、場所によっては部分的に剥離し、落下するという状況も確認されています。

地震に対する安全性を確認するために、耐震診断を実施した結果、耐震性が不十分であり、大規模地震が発生した場合、建物倒壊する危険性が高いとの診断結果が出ました。

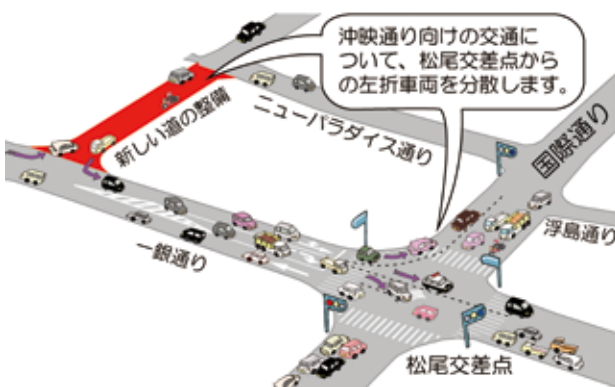
このことから、平成28年10月13日より休館することになりました。

一方、現那覇市民会館は建築物としての歴史的価値が評価され、建物の保存を求める声があります。

今後は、建物を活用しながらの保存が可能か、あるいは解体して新たな施設を建設すべ



より、施設利用の前後にまち中を散策しながら、周辺のお店などを利用することで中心市街地の活性化が期待できます。



松尾交差点改良のポイント



■現況の松尾交差点

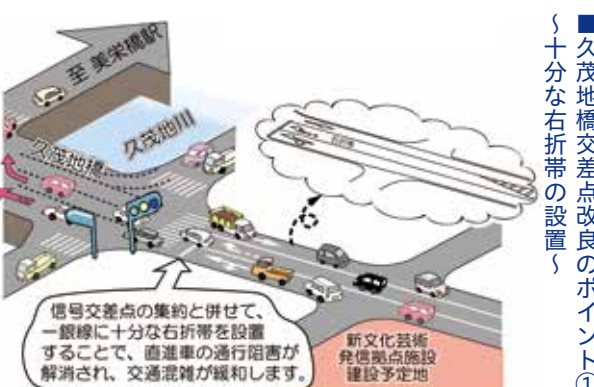
国際通りの混雑で一銀通りからの左折・直進車が流れない。

■現況の久茂地橋交差点

久茂地橋の前後で2つの信号交差点があり、橋上部での停止車両が多い。

橋上部で停止した車両が流れないと、国際通り側からの車両が流れない。

右折帯が無く、どうにか2列に並んでいるため、直進車の通行阻害等が発生している。



久茂地橋交差点改良のポイント②

信号交差点の集約と併せて、一銀通りに十分な右折帯を設けることで、直進車の通行阻害が解消され、交通混雑が緩和します。

◆まちづくり
交通環境について
都市計画課
☎95113246
FAX95113245
◆新文化芸術発信拠点施設
現市民会館について
文化振興課
☎9172395
FAX9175092